

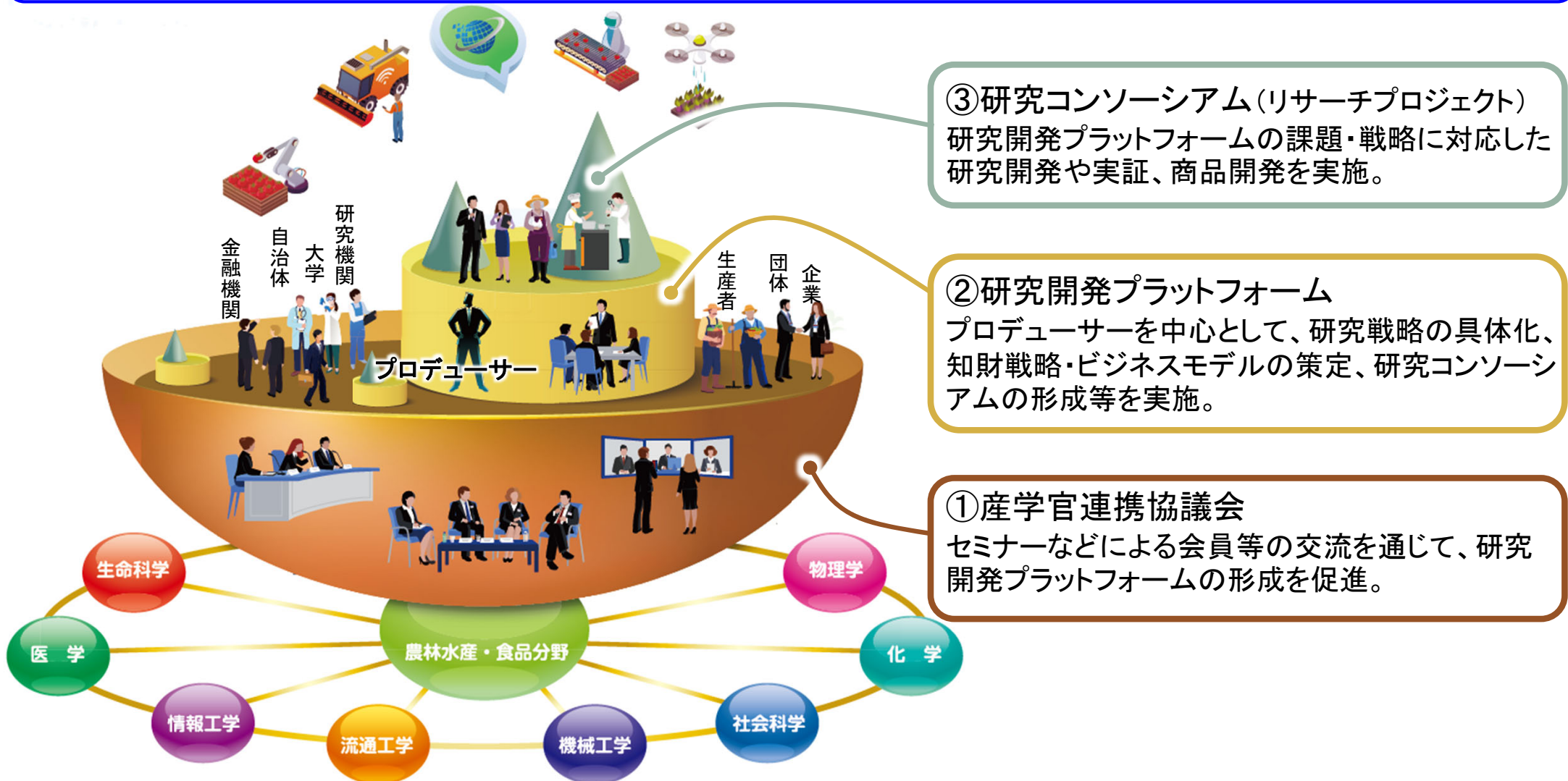
令和4年度活動報告

令和5年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究推進課 産学連携室

オープンイノベーション創出の仕組み（「知」の集積と活用の場）

○ 「知」の集積と活用の場は、オランダのフードバレー等の産学官が連携したイノベーション創発の仕組みを参考にしながら、我が国における新たな農林水産・食品分野のオープンイノベーション創出の仕組みとして、平成28年4月から活動を開始。

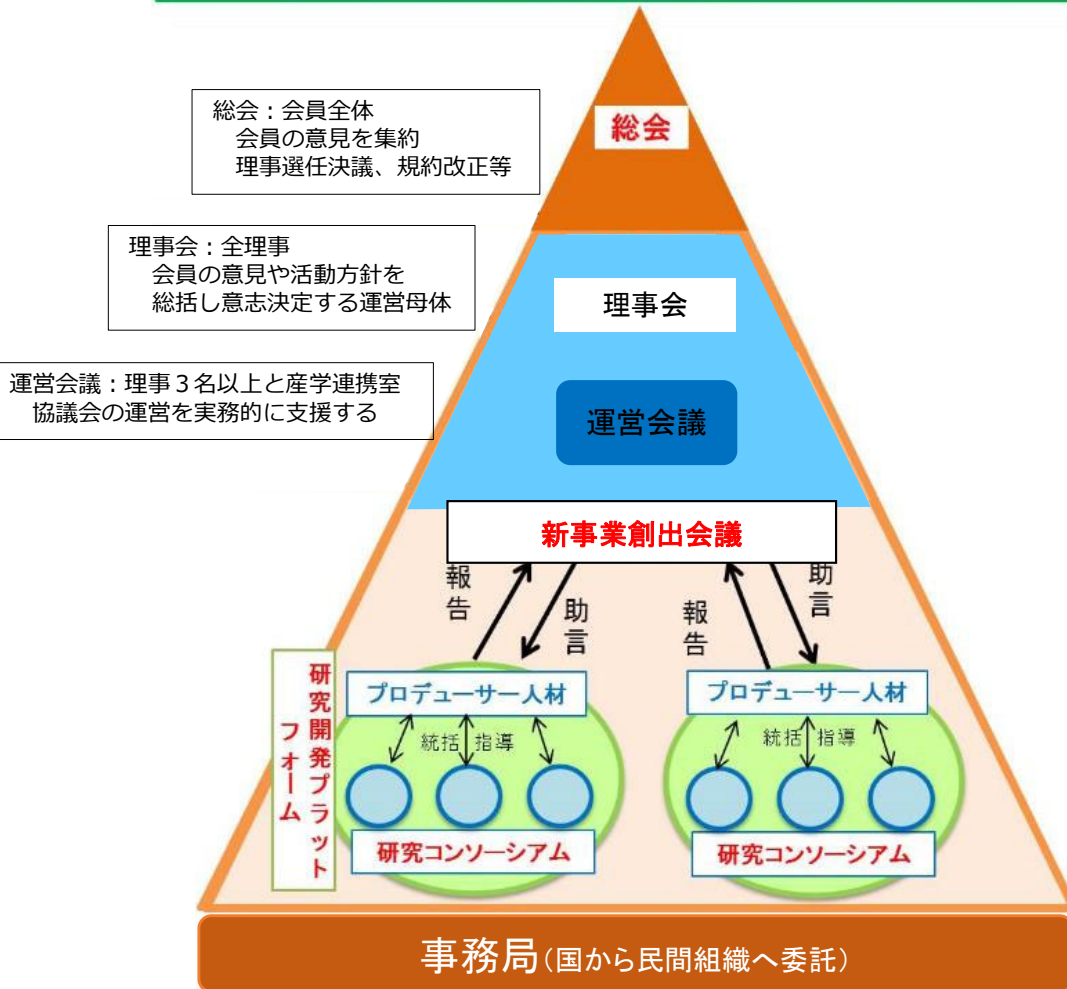


(※)プロデューサー人材とは、民間等での研究開発を通じた商品化・事業化の経験等を有する、
研究開発プラットフォームの執行責任者

産学官連携協議会の体制について

- 産学官連携協議会は、令和元年7月の定時総会の決議により、これまでの機能を保持しつつも、より機動的に活動できる体制に変更し、現在、会員の意見を集約する総会のほか、会員の意見や活動方針を総括する理事会、協議会の運営を実務的に支援する運営会議によって運営されている。

「知」の集積と活用の場 産学官連携協議会の体制(イメージ)



理事会

役員任期2年(直近の改選R3.6月)

- <会長>
川村 邦明 株式会社前川製作所 顧問
- <副会長>
久間 和生 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 理事長
- 堤 伸浩 全国農学系学部長会議 会長
東京大学大学院農学生命科学研究科長
- 渡利 広司 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
社会実装本部長
- <理事>
稲垣 史則 株式会社島津製作所 常務執行役員
- 折戸 文夫 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構 非常勤顧問
- 小梶 聡 マルハニチロ株式会社 常務執行役員
- 田中 進 株式会社サラダボウル 代表取締役
- 長平 彰夫 東北大学名誉教授
立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科 教授
- 松山 旭 キッコーマン株式会社
取締役常務執行役員 研究開発本部長
- 横田 修一 有限会社横田農場 代表取締役

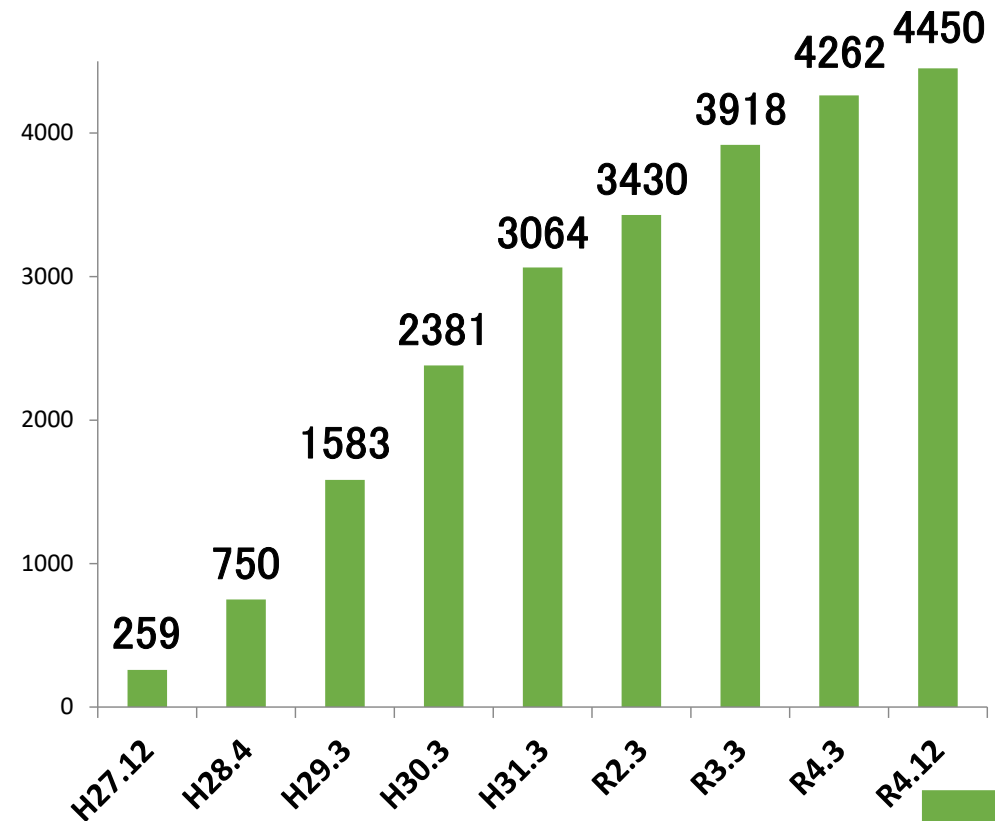
産学官連携協議会について

- 産学官連携協議会は、セミナー・ワークショップ等の相互交流の場を提供し、研究開発プラットフォームの形成やプロデューサー人材の育成に努めてきたところ。
- 協議会には、農林水産業・食品産業だけでなく、電気・機械・化学・情報など多様な分野から参画。会員数は**4,450**(令和4年12月28日時点)

＜産学官連携協議会の会員構成＞

区分	業種・組織	会員数
法人 団体	農林水産業・食品産業	742
	電機・精密機器製造業等	226
	化学工業等	191
	その他製造業等	313
	卸売・小売業	117
	情報通信・専門・技術サービス業	622
	金融機関(農林中央金庫、銀行等)	37
特別	研究関係機関(大学、国研、公設試等)	455
	民間団体(全農他)	298
	行政・自治体(県、市町)	92
	その他(大使館他)	101
個人	農林漁業者等	98
	研究者等	1158
合計		4,450

＜会員数の推移＞

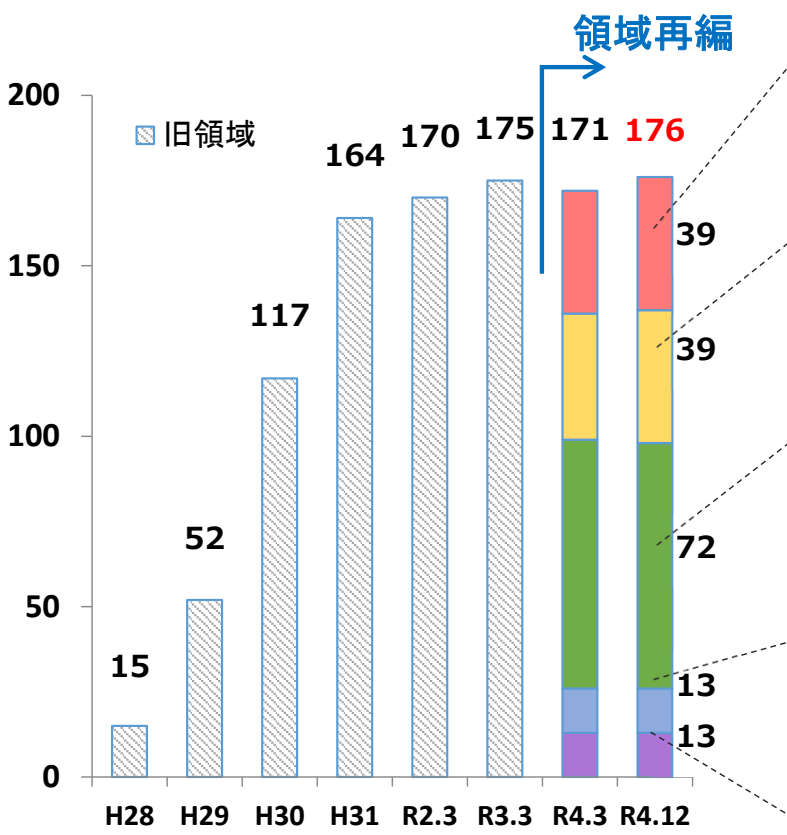


※ 海外会員:11名(令和4年12月28日時点)

研究開発プラットフォーム(PF)について

- 令和4年12月時点で**176**のプラットフォームが活動中。
- 令和3年度からの第2期では、プラットフォームを5つの「ターゲットとする産業領域」(カテゴリー)に分類。

＜研究開発プラットフォーム数の推移＞

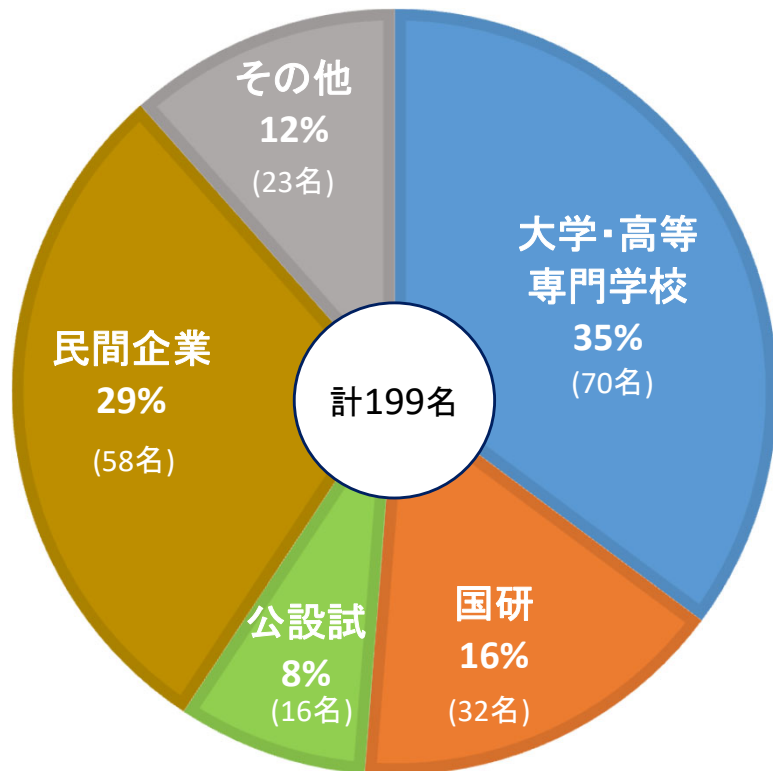


カテゴリー	主な取組の例
①スマート農林水産業及びスマートフードチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ビッグデータ・AI等を活用したスマート育種技術 データに基づく家畜改良や飼養管理の高度化 電子タグ等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携 鳥獣の効率的なスマート捕獲技術
②おいしくて健康によい食づくり(産業基盤の強化に向けた連携促進)	<ul style="list-style-type: none"> 介護食品の開発やスマートミールの普及 食を通じた健康管理を支援するサービス 健康維持・増進に関する科学的エビデンスの獲得・蓄積
③持続可能な農林水産業・食品産業(地球規模・地域の課題解決)	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動に対応した品種や栽培技術の開発 基盤技術やシステムの共同開発による食品工場等の自動化・省人化 農業水利施設の点検・診断の省力化・高度化 地域の再生可能エネルギーを用いた分散型エネルギーシステム構築
④農林水産物・食品の輸出促進、農林水産・食品技術の海外展開・国際共創	<ul style="list-style-type: none"> 海外ニーズに応える新商品の開発 グローバル・フードバリューチェーンの構築等を通じた海外展開や海外需要の獲得 途上国に対する農業生産や食品安全等に関する研究開発及び技術協力
⑤バイオテクノロジーを活用した新事業創出	<ul style="list-style-type: none"> 代替肉の研究開発等のフードテック 薬剤耐性菌の全ゲノム解析等によるリスク低減措置 バイオマス発電やその排熱利用 食品加工過程の副産物・廃棄物の利用促進

研究開発プラットフォーム(PF)のプロデューサーについて

- 176あるプラットフォームには、**199名**のプロデューサーが在籍している。そのうち、35%が大学・高専といった教育機関に所属している。(令和4年12月28日時点)

プロデューサーの所属



※令和4年12月時点

- ※ 1つのプラットフォームに複数のプロデューサーを置いている場合は、それぞれ計数する。
- ※ 1人のプロデューサーが複数のプラットフォームのプロデューサーを兼任する場合には、重複してカウントしない。

研究開発プラットフォームの活動

- プロデューサーを中心に、研究課題の具体化、知財戦略・ビジネスモデル策定、研究コンソーシアム形成等、プラットフォームの活動が行われる。
- プラットフォームの活動例
 - ープロデューサー会議・総会等：PFを運営する
 - ーセミナー・勉強会の主催：PFへの勧誘、成果の周知、研究のブラッシュアップのため、イベントを主催する
 - ーサロン活動：会員間交流を活性化し、マッチング促進やそのベースとなる信頼関係を構築する
 - ーイベント・展示会等への出展：PFのニーズ・シーズや成果をPRして、商品拡販や外部連携に繋げる

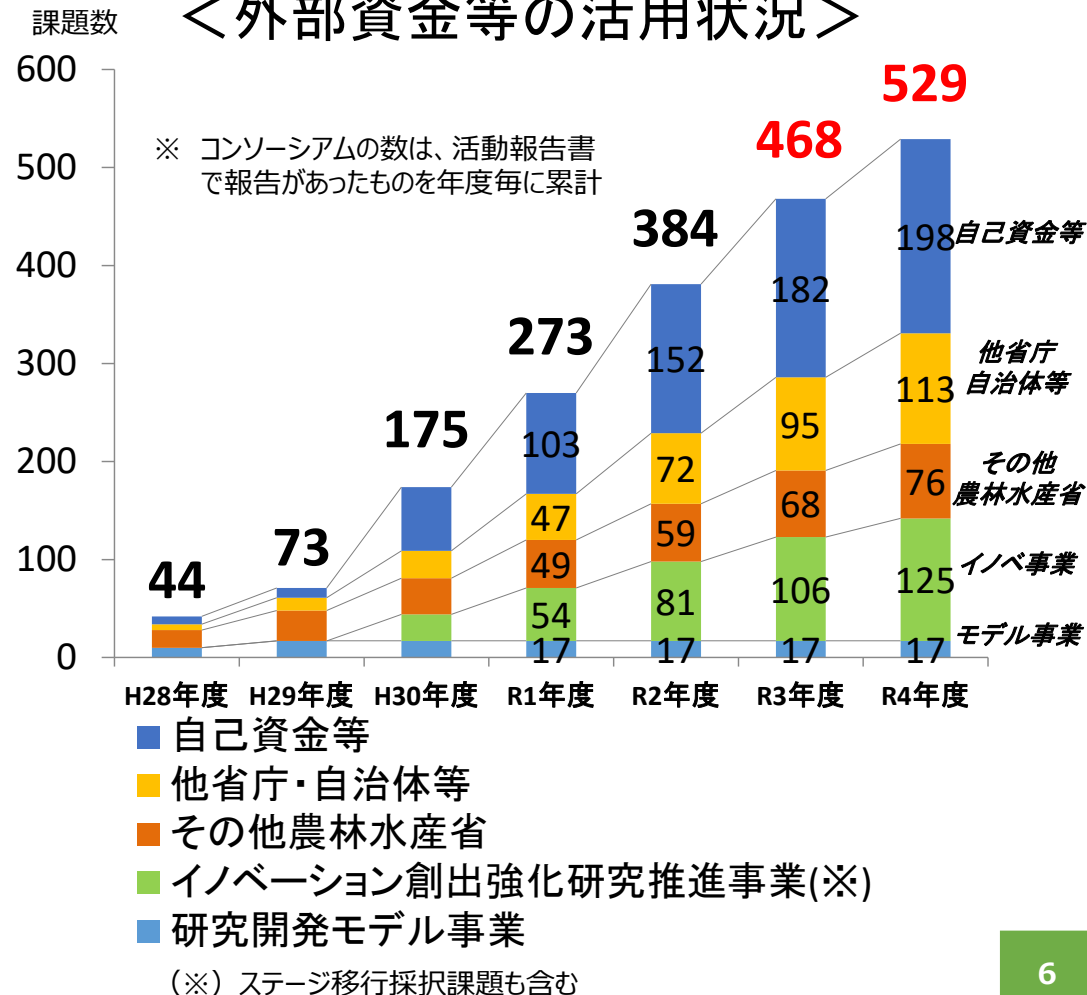
研究コンソーシアムについて

- 「知」の集積と活用による研究開発モデル事業において、全17課題を採択(28~29年度)したほか、平成30年度~令和4年度のイノベーション創出強化研究推進事業において、「知」の集積と活用場の研究コンソーシアムの提案から**124**課題を実施。他省庁を含む他の事業においても研究を実施。
- 令和4年度までに、**529**の研究コンソーシアムが研究を実施又は課題採択。

<研究コンソーシアム集計(産業領域別)>

ターゲットとする産業領域	課題数
① スマート農林水産業及びスマートフードチェーン	86
② おいしくて健康によい食づくり (産業基盤の強化に向けた連携促進)	87
③ 持続可能な農林水産業・食品産業 (地球規模・地域の課題解決)	296
④ 農林水産物・食品の輸出促進、 農林水産・食品技術の海外展開・国際共創	30
⑤ バイオテクノロジーを活用した新事業創出	36
第1期で解散したPF	17
合計	529

<外部資金等の活用状況>



令和4年度 産学官連携協議会 活動一覽

	令和4年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和5年 1月	2月	3月
総会 新事業創出会議				▲総会		▲新事業創出会議1						
理事会 運営会議 評価委員会		▲運営会議1		▲理事会1		▲運営会議2				理事会2 ▲		評価委員会▲
主催イベント				▲セミナー: SIP2期の取組概要紹介		ポスターセッション (ハイブリッド開催)	特設Webサイト ▲会場展示	▲オンラインセッション				▲成果報告会
						▲パネルディスカッション: 事業化に向けてできること						
共催イベント							▲スペイン大使館			▲NZ大使館・日本農芸化学会		▲デンマーク大使館
参加イベント				オープンイノベーションチャレンジピッチ▲ (経済産業省関東経産局共催)		▲日本冷凍空調学会	▲アグリビジネス創出フェア	▲JFフードサービスバイヤーズ商談会				フィンランド大使館▲
その他							事業化等サポート					
	← 毎週メールマガジン配信。随時、会員・プラットフォーム受付、相談対応、ヒアリング。 →											

令和4年度の産学官連携協議会の活動について

プロデューサーの育成・事業化等サポート

◇新事業創出会議

研究開発プラットフォームのプロデューサー等を中心に構成する会議。研究戦略やビジネス構想の立案を支援する情報を提供。

◇事業化等サポート

研究開発プラットフォームの成果を社会実装に繋げるため、ビジネス戦略等の支援を実施。



連携促進

◇ポスターセッション・セミナーの開催

会員・研究開発プラットフォーム・研究コンソーシアムが成果を共有・議論し、連携の可能性を検討する場を提供。

◇アカデミアとの連携

日本冷凍空調学会との意見交換を実施。
日本農芸化学会、NZ大使館との共催セミナーを開催。



◇経産省との連携

食関連分野オープンイノベーションチャレンジピッチを開催。

協議会運営

◇総会

全国内会員で構成。
理事選定や規約改正等を決議。

◇理事会・運営会議

メーカー、生産者、大学、国研など、
多様な理事で構成。
協議会運営の意思決定を実施。

成果のPR

◇展示会への出展

アグリビジネス創出フェアやJFフードサービスバイヤーズ商談会などの展示会に出展し、研究開発の成果をPR。

◇成果報告会の開催

記者や非会員も参加可能な成果報告会を開催。



海外展開の支援

◇駐日大使館の参画

69の駐日大使館が入会しており(令和4年12月時点)、共催イベント等で海外の研究機関等との技術交流を支援。

◇海外会員の募集

海外との研究開発や商品化・事業化に向けた協業を加速するため、海外会員を募集。

◇海外向けメルマガの配信開始



定時総会・新事業創出会議の開催

- 定時総会では、年間活動報告・活動計画を確認。情報提供と内閣府SIP2「スマートバイオ産業・農業基盤技術」についての講演を実施。
- 新事業創出会議では、事業化をテーマとした講演・パネルディスカッションを開催。

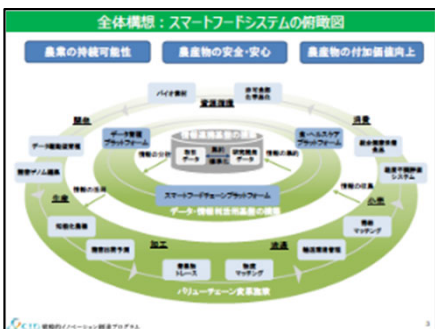
定時総会(R4年7月1日) **454名が視聴**

<総会>

- ・ 令和3年度活動報告
- ・ 令和4年度活動計画
 - ✓ 研究開発プラットフォームの事業化等サポート
 - ✓ 海外展開・連携の支援
- ・ 情報提供:産学連携支援におけるJATAFFの活動

<講演>

- ・ 「戦略的イノベーション創出プログラム(SIP)第2期『スマートバイオ産業・農業基盤技術』」取組紹介



NARO Style@PLUS ミールセットの設計

内蔵脂肪面積の低減に寄与するNARO Style@Plusメニュー（50%もち麦ごはん、おかず3種類、「べにふうき」緑茶）を基本に栄養成分(ビタミン、ミネラル等)や機能性成分(β-グルカン、カテキン類)に着目して10メニューを設計

本ミールセットは50%もち麦ごはん、おかず4種類（特に豆類を素材とした副菜を追加）、「べにふうき」緑茶粉末から構成

通販サイトから販売開始
<https://carelight.care.flowshop.co.jp/>

新事業創出会議(R4年9月30日) **102名が視聴**

- ・ 現役プロデューサー2名と民間の事業経験者2名の両方の視点から、事業化をテーマとした講演とパネルディスカッションを実施
- ・ プロデューサーや管理運営機関に向けて、プラットフォームの抱える課題の共有や事業化に向けたマインドセットについて情報提供

<登壇者>

- ・ K-NIC スーパーバイザー 尾崎典明様
- ・ 丸紅株式会社 中部支社副支社長 近藤孔明様
- ・ 信州大学 國井久美子様
(信州大学 食・農産業の先端学際研究開発プラットフォーム)
- ・ 九州大学 房賢貞様
(農林水産物の輸出促進研究開発プラットフォーム@九州・沖縄)



ポスターセッションの開催

- 協議会会員、研究開発プラットフォーム等が取組・成果を発表し、連携の可能性を議論するためのポスターセッションを開催。
- 11月30日(水)～12月16日(金)に、「現地会場でのポスター展示」「オンラインセッション」「特設Webサイト展示」の3形態にて開催。

会場展示 (R4年11月30日)

- 川村会長、川合局長による挨拶
- 渡利理事による基調講演:「研究成果の社会実装を目指す～産総研の取組み」
- みどりの食料システム戦略やフードテック、輸出促進などをテーマとした65点のポスター展示があり、約**140名**の参加者が交流
- 在京大使館や学会等からも招待展示



開会挨拶



基調講演



会場の様子

オンラインセッション (R4年12月15日)

- 2グループ計24件の事例発表を**108名**が視聴
- 全発表の終了後、発表者と視聴者間の交流の場(ブレイクアウトルーム)を提供

特設Webサイト (R4年11月30日～12月16日)

- 89点のポスターを掲載、のべ**1,991人**が来訪し、合計**10,719回**のポスター閲覧



本サイトは、「知」の集積と活用(場)会学企業連携推進基金」のポスターセッション2022のオンライン版の会場です。
総研会に所属する研究開発プラットフォームやコンソーシアム、会員の貴様の研究開発等を紹介してまいりますので、お気軽にご参加ください。
協議会の活動や研究開発プラットフォーム等のポスター内容にご関心がありましたら、事務局までお問い合わせください。

展示会・商談会への出展

- 研究開発プラットフォームの成果の商品化・事業化を支援するため、JFフードサービスバイヤーズ商談会に出展。2つのプラットフォームから商品サンプルや試食も含めて成果を展示。
- アグリビジネス創出フェアでは、セミナーで産学官連携協議会の取組の紹介をするとともに、協議会のブースでプラットフォームの研究成果等を展示。また、15のプラットフォームがブース出展。

JFフードサービスバイヤーズ商談会（R4年11月15日）

- ・ サプライヤー152社が外食や小売等のバイヤーに提案
- ・ 知の集積からは以下のプラットフォームが出展

○信州大学 食・農産業の先端学際研究開発プラットフォーム
信州大学のハイテク技術が生み出した商品群・未利用資源を活用した「まるごとりんごジャム」（写真左）

○さんりく養殖産業化プラットフォーム
産官学連携により釜石湾内で試験養殖した「釜石はまゆりサクラマス」の刺身（写真右）



アグリビジネス創出フェア2022（R4年10月26日～28日）

- ・ 協議会のブースで、研究成果を紹介するポスターの展示や協議会リーフレットの配布を実施。多くの来場者に「知」の集積と活用についてのPRを行った。
- ・ メインステージで行われたセミナーでは、当協議会の取組及びスタートアップ総合支援事業について紹介したほか、プラットフォームのプロデューサーより具体的な研究や事業化の取り組みについての講演を行った。
- ・ 15のプラットフォームがブース出展した。

3日間で1.9万人が来場



研究開発プラットフォームの成果の発信

- 成果報告会では、報道関係者も招いて商品化前後の開発事例を持つ4つの研究開発プラットフォームから、最新の成果を発表

成果報告会（R5年2月8日） 156名が視聴

- 報道関係者や会員以外の方々も招いて開催
- 日英同時通訳により国内外に向けて成果発信
- 4つの研究開発プラットフォームから成果発表

①『魚介類の鮮度見える化システム「MIRASAL」の開発』

（ロバスト農林水産工学研究開発PF）

②『高精度植物生育情報を活用した高品質イチゴの培地レス栽培技術』

（スマート・メガスケール植物工場研究開発PF）

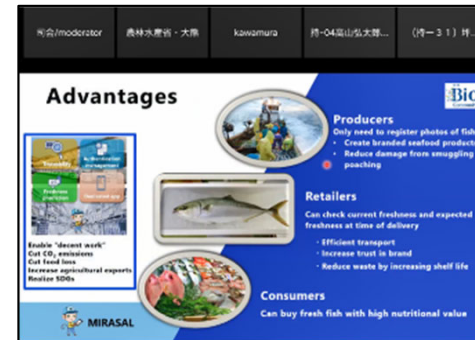
③『麹菌を用いた新たな代替肉「麹肉」の開発』

（健康長寿食品研究開発PF）

④『木そのものを直接発酵して造る香り豊かな新しいお酒』

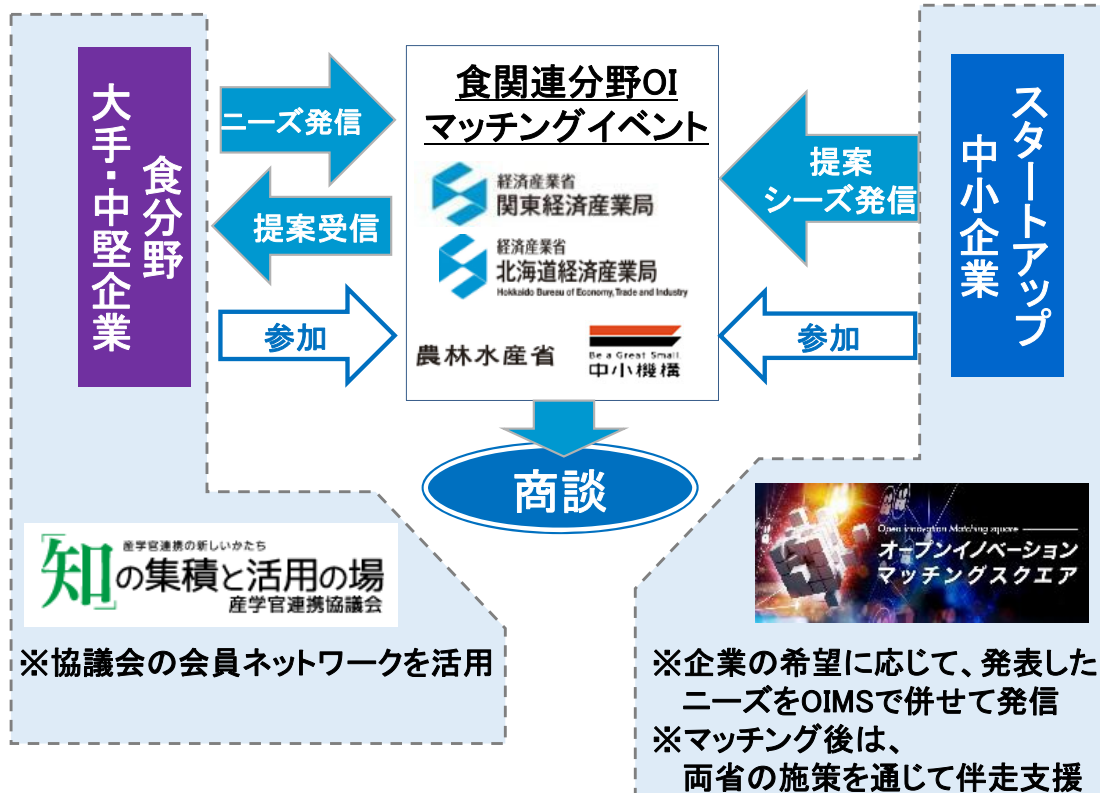
林業振興と新産業創出を目指して』

（地域創生に資する森林資源・木材の需要拡大に向けた研究開発PF）



オープンイノベーションに係る経済産業省との連携

- 農林水産・食品分野におけるさらなるオープンイノベーション(OI)の促進を目的として、農林水産省と経済産業省は食関連分野オープンイノベーションチャレンジピッチ(OIピッチ)を開催。
- 大手・中堅企業が発信したニーズに対して、産業支援機関・金融機関及び大学のコーディネーター等が、シーズを持つ企業・大学を引き合わせるにより、マッチングを促進。



食関連分野 オープンイノベーション・チャレンジピッチ

昨年に続く第2弾として、令和4年9月21日に開催。食関連分野の大手・中堅企業8社が登壇し、ニーズを発信。

＜令和4年度登壇企業＞

- ・株式会社にんべん
- ・DIC株式会社
- ・株式会社ポテトかいつか
- ・三進金属工業株式会社
- ・ニッコー株式会社
- ・有限会社穂海農耕
- ・ネスレ日本株式会社
- ・株式会社フジキン

	R3年度	R4年度
登壇社数	5社	8社
連携ニーズ数	14件	21件
シーズ提案数	175件	175件
商談数	37件	37件

その他連携に関する取組

- 日本冷凍空調学会 食品技術委員会・政策委員会において協議会活動の紹介、及び意見交換を実施。
- 日本農芸化学会と在京大使館との共催セミナーを開催。
- ポスターセッションに各学会から招待展示。
- 会員やプラットフォームのサポートのため、JATAFF、JETRO、中小機構との意見交換を実施。

アカデミアとの連携

【日本冷凍空調学会 食品技術委員会・政策委員会】(9月7日)

- ・ 協議会の取組状況報告、今後の連携についての意見交換を実施
- ・ 今後の連携方針として、
 - ✓ イベントや会議などで相互に情報交換
⇒ 11月30日ポスターセッションにて学会から招待展示
 - ✓ 学会会員の協議会の活動への参画を呼掛け

2019年7月27日 日本冷凍空調学会 食品技術委員会・政策委員会の開催報告

農林水産・食品分野のオープンイノベーション
～「知」の集積と活用の中 産学官連携協議会の取組実施状況報告と
日本冷凍空調学会との連携検討～



農林水産省 農林水産技術会館事務局 研究推進課
産学連携室長 大熊 貴

【日本農芸化学会】

- ・ 日本農芸化学会、ニュージーランド大使館の共催にて、セミナーイベントを実施(12月2日)
- ・ 11月30日ポスターセッションにて学会から招待展示

JATAFFとの連携

- ・ マッチングや技術移転等、会員やプラットフォームから相談があった際にJATAFFを紹介
- ・ 11月30日のポスターセッションでは、ブースを設け11件の相談に対応
- ・ JATAFFからの公募カレンダー等情報提供について、随時メルマガにて周知

その他機関との連携

- ・ JETRO・中小機構が提供する支援メニューについて聞き取り
- ・ 会員やプラットフォームからの要望に応じて、支援メニューを紹介

海外展開・連携に向けた取組①

- 在京大使館への「知」の集積と活用の際の周知活動を進めた結果、アジア・太平洋州と欧州を中心に69大使館が入会（令和4年10月31日時点）。
- スペイン、NZ（及び日本農芸化学会）及びデンマーク大使館との共催イベントを開催。

スペイン大使館（10月13日） オンラインウェビナー

- テーマ：オープンイノベーション
- スペインと日本企業等との連携に向けた取組紹介
- 研究開発PFの取組紹介
（サボテン等多肉植物の潜在能力発掘と活用推進PF 中部大学堀部先生）
- スペイン側：4件の発表



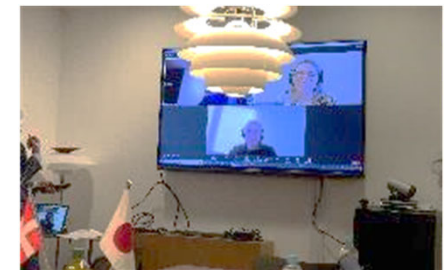
ニュージーランド大使館、 日本農芸化学会（12月2日） ハイブリッド開催

- テーマ：代謝物と育種
- 共同研究や研究開発PF立上げに向けた議論
- 研究開発PFの取組紹介
（次世代型家畜生産技術の研究開発PF
（信州大学米倉先生）
（北海道大学後藤先生）
- 日本農芸化学会から2件の発表（植物分野）
- NZ側：4件の発表



デンマーク大使館（12月6日） オンラインウェビナー

- テーマ：植物由来の食品と素材
- 新規ビジネス創出に向けての協業可能性の模索
- 「大豆由来の新しい食品・素材」
（健康長寿社会の実現に向けたセルフ・フード
プランニングPF 不二製油中森様）
- デンマーク側：4件発表



海外向けメルマガの発信

2. Proposal for the development of appropriate meat management technology to improve the sustainability of meat production

Graduate School of Agricultural Science, Kobe University
Research Director, Assistant Professor
Shuji Ueda



海外と国内の相互情報交流を目的として、
英語版メルマガの配信を開始（vol.1 8月、
vol.2 11月、vol.3 1月）。



Characterized by its beautiful marbling, Japanese Black Beef (Wagyu) beef is very tender and flavorful. Kobe beef is one of the most premium ingredients that attracts chefs from across the globe. Kobe University is located in Kobe City, Hyogo Prefecture, where Kobe beef is produced. We use genomic information to study the genome and understand the genetic factors that determine its flavor.

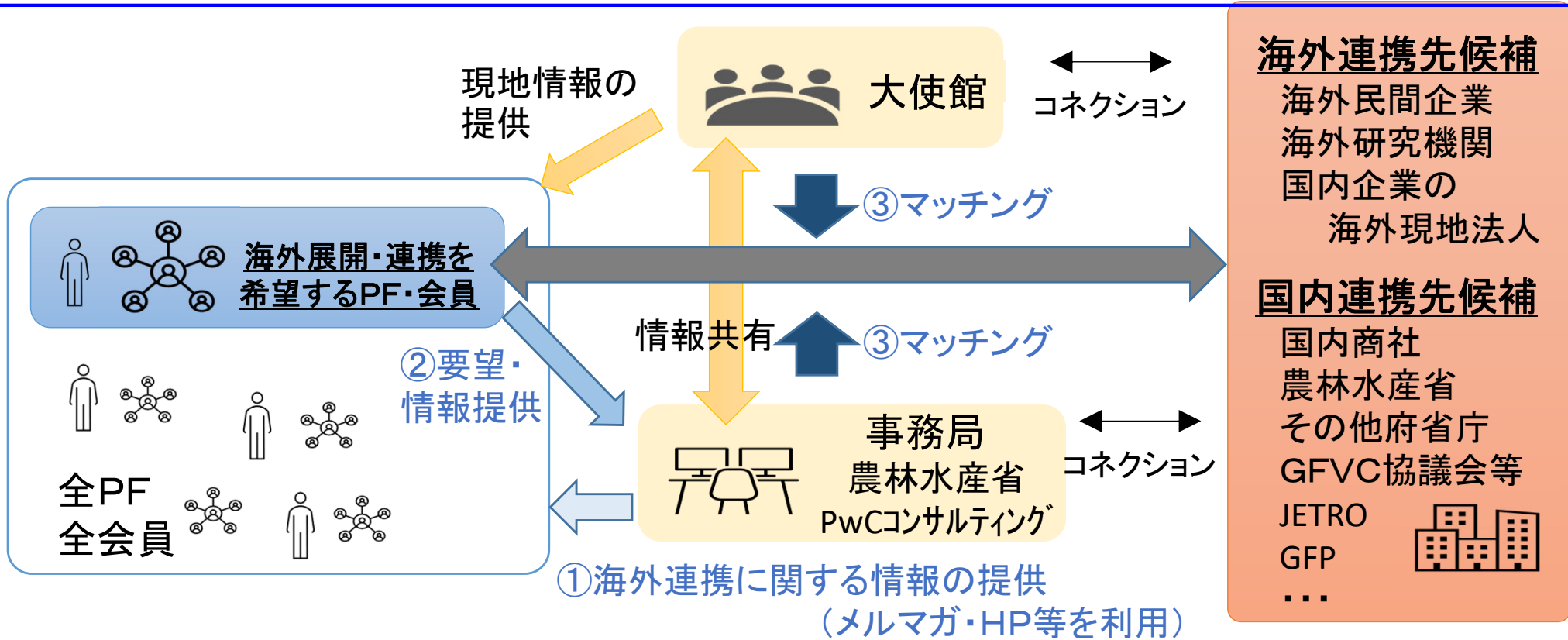
英語版サイトの充実



英語版サイトで「知」の集積と活用の際の取組を紹介。
海外会員入会申請フォームの新設。

海外展開・連携に向けた取組②

- PF・会員の要望に応じた連携先との関係構築の支援を総会にて周知。
- 海外連携の情報提供やネットワーキングなどを実施。



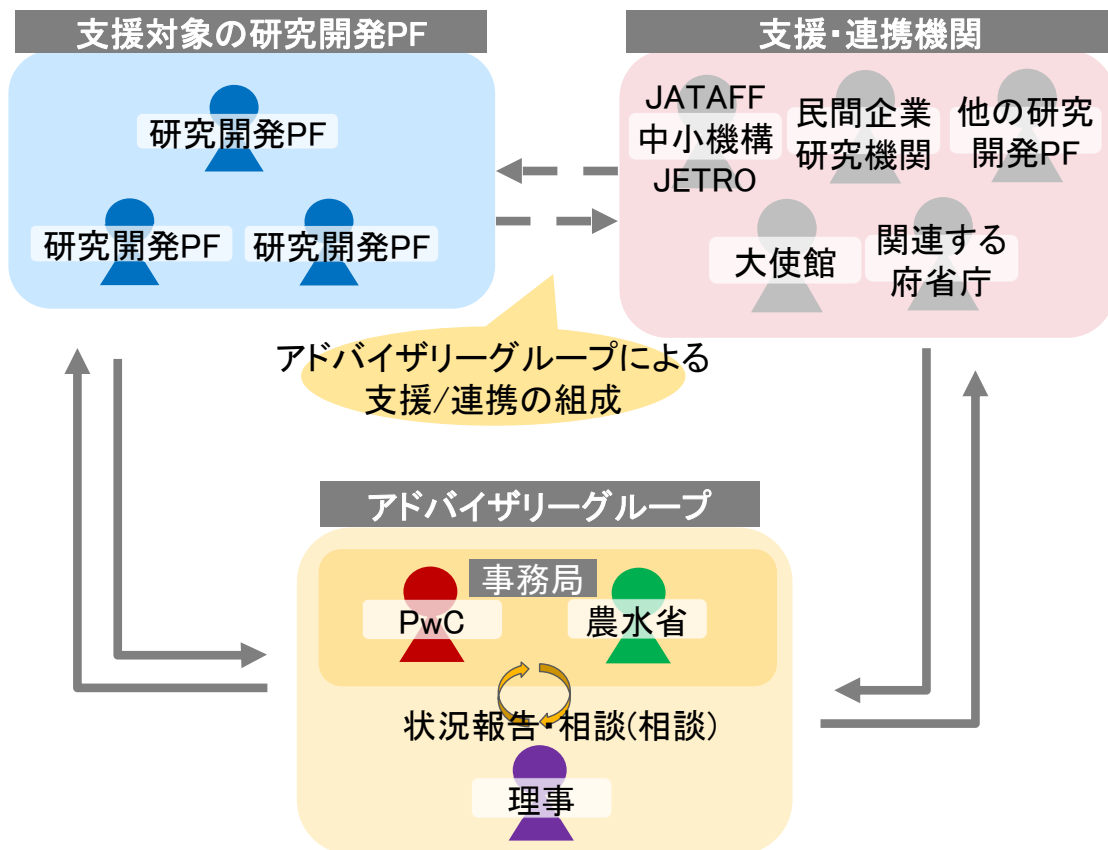
- 会員からの要望に応じて、会員同士あるいは在外日本大使館・JETROとの関係構築を仲介。
- 新事業創出会議において農林水産省の輸出施策を紹介(GFP、GFVC協議会)。
- 協議会イベントをGFVC協議会など、他機関に周知。
- 在京大使館会員からの各種問合せに対応(スペイン、フィリピン、ハンガリー、フランス、オランダ、タイ、イスラエル、ベトナム、フィンランド等)。

研究開発プラットフォーム(PF)の事業化等サポート①

- 研究成果の事業化等に向けて、研究開発プラットフォームをサポートする仕組みを検討。
- 令和4年度は試行的な取組として、PFから希望を募り、手が上がった8件に対してインタビューを行い、協議会理事と事務局からなる「アドバイザリーグループ」によるサポートを実施。



事業化等サポートの仕組み(試行)



本年度の事業化等サポートの取組

【今年度の取組内容】

- 事業化等サポート策の検討に向けて、研究開発PFへの事業化等を見据えたサポートを試行的に実施
 - ・ 研究開発PFからサポート希望を募った結果、8件の応募があった
 - ・ 1件の研究開発PFに重点的に支援を行いつつ、7件の研究開発PFにも適宜支援を実施

【サポートの方針】

- 研究開発PFの課題を把握しながら、中長期的にケアを行う、いわば研究開発PFの“かかりつけ医”的な位置づけとして、アドバイザリーグループ(理事及び事務局)によるサポートを実施

研究開発プラットフォーム(PF)の事業化等サポート②

- 重点支援対象の研究開発PFに対しては、新事業創出の企画検討等を伴走的に支援。
- その他7件の研究開発PFに対しても、JETROや中小機構等の支援施策に関する情報提供、民間企業や類似した取組を行う研究開発PFとのマッチング支援等を実施。

伴走的な支援の実施

【取組概要】

- 令和4年度は、事業化検討の土台を固めるべく、3つの取組を通じて、PFが保有するシーズを活用した新事業創出に向けた検討を行った

- ① PFが保有する技術・価値の棚卸し
- ② 事業企画の検討(ビジネスモデル検討、市場・顧客ターゲットング・アプローチに向けたアクション検討、競合調査等)
- ③ 事業化に向けた体制作り(民間企業、大学、弁理士等を巻き込んだコンソーシアム組成)

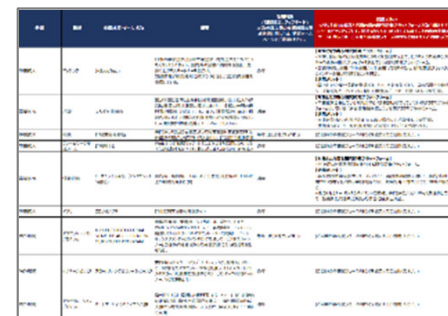
【取組結果】

- 研究開発PFが保有する技術・価値を活かしたビジネスモデルの検討を支援し、参画するプレイヤーとのマッチングを組成するとともに、民間企業や研究機関その他のプレイヤーを巻き込んだコンソーシアムの設立に貢献

支援・連携機関の支援施策の情報提供

【取組概要】

- 事業化等に向けて研究開発PFが活用し得る支援・連携機関(JETRO, 中小機構、JATAFF)の関連施策を整理し、情報提供



機関	支援施策	内容
JETRO	海外市場調査	海外市場の動向調査、現地視察のサポート
中小機構	経営相談	経営戦略の策定、人材育成の支援
JATAFF	特許相談	特許の取得・維持のサポート

【取組結果】

- 研究開発PFによる支援施策の検討に貢献

民間企業や他の研究開発PFとのマッチング支援

【取組概要】

- 類似した取組を行う研究開発PF、先進事例を有する企業を紹介し、意見交換の場を設定

【取組結果】

- 連携可能性のあるプレイヤーを紹介することにより、コンソーシアムの設立など将来的な連携組成に貢献

イノベーション創出強化研究推進事業 採択課題一覧(令和4年度)

課題名	研究開発プラットフォーム名	代表機関
【基礎研究ステージ】		
虫媒受粉制御とゲノミック予測の融合によって新規育種素材を創出する大豆循環選抜育種法の開発	次世代育種技術による品種開発推進プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
【応用研究ステージ】		
国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の構築	地域創生に資する森林資源・木材の需要拡大に向けた研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人森林研究・整備機構
丸太運搬作業の完全自動化に向けた荷役作業自動化技術の開発と自律走行技術の高度化	持続的な林業生産システム研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人森林研究・整備機構
持続可能な農業の実現を目指した高温耐性かつ高窒素利用効率を有する水稻品種の高速育種	次世代育種技術による品種開発推進プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
ウニの成熟制御機構を応用した革新的養殖生産技術の開発	ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォーム	北海道大学
早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発	地域創生に資する森林資源・木材の需要拡大に向けた研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人森林研究・整備機構
持続的安定供給可能な水産資源を活用した医食連携によるフレイル対策及び栄養介入法の確立と、有用成分を含有する次世代機能性水産資源のリスト化を通じた国内水産業活性化への寄与	「水産物由来成分を活用したロコモーション機能改善素材探索」研究開発プラットフォーム	愛媛大学
忌避効果の持続可能なエッジコンピューティングAI鳥害防止システムの応用研究	信州大学 食・農産業の先端学際研究開発プラットフォーム	マリモ電子工業株式会社

イノベーション創出強化研究推進事業 採択課題一覧(令和4年度)

課題名	研究開発プラットフォーム名	代表機関
【開発研究ステージ】		
越夏性に優れるライグラス新品種を用いた省力的な草地の高位安定生産技術の開発	自給飼料の生産性向上研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
侵入害虫トマトキバガに対する診断・発生予測手法の確立と防除技術の開発	SDGsに貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
ダイズ黒根腐病抵抗性を強化した品種の開発	次世代育種技術による品種開発推進プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
With / Postナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築	持続的な林業生産システム研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人森林研究・整備機構
魚・海・人にやさしい船舶搭載型自動給餌機の開発	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	国立研究開発法人水産研究・教育機構
相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立	SDGsに貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
キウイフルーツ花粉除菌技術の実証と実用化	果樹生産システム研究開発プラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
豚ロース・バラ自動脱骨装置研究開発	豚ロース・バラ自動脱骨技術研究開発プラットフォーム	食肉生産技術研究組合
【開発研究ステージ】 ←【応用研究ステージ】	ステージ移行	
光周期を利用して成熟を抑制し生産性を飛躍させる魚介類養殖手法の開発	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	国立研究開発法人水産研究・教育機構
養殖業の持続性と生産拡大を実現するゲノム選抜育種技術の実装	水産増養殖産業イノベーション創出プラットフォーム	国立大学法人 東京大学